

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100042		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム 大池		
所在地	〒815-0074 福岡県福岡市南区寺塚2丁目8番10号	092-511-2300	
自己評価作成日	平成26年04月02日	評価結果確定日	平成26年05月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく。」の理念にもあるように、一人ひとりの思いや希望をかなえられるように努力している。
 ・その方の生活習慣を大切に継続できるように支援している。(その方の当たり前を支援する)
 ・家庭的な雰囲気や居心地のよい環境づくりに心がけている。
 ・入居者の方は、表情よく、活き活きとされているように思えます。要望や自分の思いを伝えてくれます。「言いたいことが言えてここはいい。」とよく言われます。
 ・ボランティアの方も定着しており、地域の方との交流を増やしたいと努めている。
 ・ホームでの行事や外出等楽しめる機会を多く作り、ご家族との関わりや思い出づくりに努めている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年04月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム大池」は、バス停に近い利便性の良い、閑静な住宅地の中に、社員寮を改築した3階建てビルの2階と3階にある2ユニットのグループホームである。利用者が住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしの支援が出来るように、11年前に開設した家庭的な事業所である。利用者や職員は、地域の一人として、公民館活動や地域の清掃、行事に積極的に参加し、子供神輿やボランティア、介護相談等を受け入れ、地域との交流は活発で、信頼関係の構築に繋がっている。家族アンケートが18人中17人に協力いただき、家族とホームとの信頼関係の深さが窺える内容である。また、ホームドクターによる、隔週毎の往診と、毎週訪問の看護師との連携、介護職員の鋭い観察力と合わせ、利用者の健康状態は万全で、安心して任せられる体制が整っている「グループホーム大池」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で安心した暮らしの継続、その人らしい生活ができることを目的としている。方針や目標を理解するために理念の確認や日々のカンファレンスやスタッフ会議、業務の中で、理念と照らし合わせながら実践につなげている。	ホームが目指す介護サービスのあり方を示した、独自の理念を掲げ、利用者一人ひとりに合わせた生活の支援を目指している。また、職員は、理念を常に意識し、朝のミーティングで唱和し会議の中で話し合い、日々、確認しながら介護の実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、日常的にも、散歩や買い物に出かけたりして、挨拶や会話をしている。地域のボランティアによる活動も定着している。地域活動に施設を活用してもらうよう情報提供を実施している。(民生委員の会議等)	利用者と職員は、地域の一員として、地域行事や公民館活動に参加し、地域のボランティアの受け入れや、子供たちの踊り、楽器演奏等、地域に密着した交流が広がっている。また、デイサービス事業休止の後を利用し、地域の方が、気軽に利用できることを検討している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族より、認知症の介護に関する相談を受けている。実習生の育成、地域のボランティアの方々、またホームに来られる方々に対し、認知症の方の理解が得られるように、話す機会を作っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設サービスの実際を報告し、意見交換や評価を得ている。認知症の理解や地域の情報を得る機会となっている。これから地域での役割について考える機会にもなり、助言等が取り組みに繋がっている。2ヶ月に1回必ず実施している。	会議は2ヶ月毎に定期的開催し、ホームの運営状況や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、外部の目を通した質問や要望、情報等を提供して貰い、ホーム運営に反映出来るように取り組んでいる。また、会議がマンネリ化しないように、管理者は、常に新鮮な議題を掲げ、参加者と一体になる会議を目指している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居に関することや介護保険の更新、生活保護に関する事など日頃から連絡を密にしている。キャラバンメイトとして活動しており、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者やケアマネージャーは、行政担当窓口、ホームの現況や疑問点、困難事例等を相談し、情報交換しながら連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情を理解してもらい、協力関係が築かれている。キャラバンメイト連絡会に参加し、普及活動にも取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアや高齢者虐待防止法等についての研修参加や勉強会を実施している。その方の状態を把握し見守りや声かけ等により、自由に活動できる体制づくりに心がけている。すべての出入り口は施錠せず、いつも自由に出入りできるようになっている。	身体拘束に関する外部研修や、勉強会に職員が参加し、身体拘束が利用者に与える影響を理解し、具体的な禁止行為を検証し、「身体拘束をしないさせない」を合言葉に、利用者が安心して暮らせる介護に取り組んでいる。また、玄関を含めた出入口は、日中は施錠せず、利用者が自由に出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や勉強会により高齢者虐待法について学んだり、問題提起をして話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し学ぶ機会を作っている。制度を利用されている方がいるので、身近な事例として学べている。また家族会等でご家族に資料提供や話す機会を作っている。(現在成年後見制度の利用2名)	現在、成年後見制度の利用者が2名おられるので、職員はある程度は理解しているが、外部研修会に、職員が交代で参加して理解し、契約時に、利用者や家族に制度の内容や申請方法等を説明し、理解を得ている。また、制度を利用者が必要とする時には、関係機関に紹介できる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、ていねいに説明し、同意を得ている。事例を挙げて具体的に説明し、理解納得を得るように努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活する上での不安や不満、希望に関しては定期的に聞いている。又日頃の言葉や態度により思いを察するように努めている。家族会や面会時の聞き取り等により、家族の思いの把握に努め、出された意見は実践に向けて取り組んでいる。	面会や行事参加、家族会等の時に、職員が家族と話し合う機会を設け、利用者の希望や生活状況、健康状態を報告し、家族から意見や要望を聞き取り、ホーム運営に反映させている。また、ホーム便りを毎月発行し、利用者一人ひとりの様子を記録して家族に届け、家族の安心に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会等時に運営に関することなどをリアルタイムに通達し、そのことに関して意見を聞いている。日頃からコミュニケーションを図り、素直な意見が聞ける機会を作っている。	職員会議を、毎月の勉強会を兼ねて実施し、職員の意見や要望、提案等を出して貰い、活発な意見交換の場になっている。出された意見をホーム運営や介護計画に取り入れ、職員の意欲の向上と、意識改革に繋げるように努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場に入る機会を多くつくり、個々の職員の業務状況や日頃の努力や成果を把握するようにしている。一人ひとりの個性を尊重し、意欲の向上が保てるように職場環境・条件の整備等に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ募集、採用に関しては、年齢等の制限はない。介護観や人柄を重視している。スタッフの能力を勘案し、その能力が發揮できるような関わりに努めている。(委員会、役割)資格取得の推進、協力をしている。	職員の募集は、年齢、性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先して採用している。採用後は、職員の特技を活かした役割や勤務体制に配慮し、職員が生きがいのある職場を目指している。また、新人研修や、スキルアップ研修で職員の介護力を高め、資格取得のためのバックアップ体制を整え、働きやすい職場環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、理念を踏まえて、人権尊重や思いやりを意識した現場指導に努めている。研修参加し、参加した職員は必ず、伝達している。カンファレンスや研修時に関連つけて考えるようにしている。	外部の人権研修に参加した職員が、報告を兼ねて勉強会を行い、職員一人ひとりが理解し、利用者の人権を尊重し、安心して暮らせる介護サービスの提供を目指している。また、職員は、常に理念を意識し、利用者がその人らしく過ごせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修計画を立案し受講に偏りがないように調整している。研修報告は、会議時に報告。研修に参加できなかった職員は、資料にて情報収集をし、報告書を提出してもらっている。又カンファレンスを通して考え、学び、実践する機会を作るようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に参加し事業所間の交流や情報交換の場となっている。関連施設ではあるが、他事業所の消防訓練等に参加している。他事業所の様子を見ることにより、情報収集や学びの機会となりサービスの質の向上に繋がっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時に必ず、ご本人と面談し心身の状況や思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関わりに努めている。今までの生活様式、環境があまり変化しないように配慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や経緯をゆっくりと傾聴するようにしている。家族の思いを受け止め、安心していただけるようなサービス導入に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を確認し相談支援を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。入居者の方からの励ましを受けることも多く、お互いに協同しながら生活している。その方の役割や気持ちにたいして、いつも労いや感謝の気持ちを伝えている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、本人の様子と職員の思いを伝え、ご家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室へ出かける等、なじみの人や友人との交流が継続できるように努めている。また好きな場所で好きなことを継続できるように支援している。	友人、知人、親戚等の面会時には、ゆっくり話せる場所やお茶等を提供し、いつでも来ていただけるように支援している。行きつけの美容院や、馴染みの場所にも、家族の承諾や協力を得て職員と一緒に出掛け、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関係継続が出来るように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の関係を職員は理解しており、気の合う同士が楽しく過ごせるように配慮している。また、共通の話題を提供し、関係づくりに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを終えられたご家族が運営推進委員として出席してくれたり、運営に関して助言してくれている。また、介護に関する相談や相談窓口として当ホームを紹介され、支援を実施している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の思いや意向の把握に努めている。ご家族にも確認し、その思いも把握するようにしている。その情報は申し送りやカンファレンス等で共有し、実現するように努めている。困難な方でも生活状況の中から優先されることや生活暦等からその人らしさを大切にしている。	職員は、利用者と信頼関係を築くことから始め、何でも話し合える状態の中から、利用者の思いや意向を聴きだし、実現に向けて取り組んでいる。意向表出の困難な利用者にも、職員は諦めずに、丁寧に話しかけ、利用者の表情や仕草から、利用者の思いや意向に近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者等から聞き取りをしている。利用後もご本人やご家族にどのような生活を希望されているのか確認している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズム、行動を把握し、理解するように努めている。できることに着目した関わりに努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や希望を確認し、ケアプランや日々のケアに活かしている。計画作成担当者を中心にカンファレンスを実施し情報の共有やプランの検討を実施している。主治医の評価も反映している。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を密に取りながら、主治医の助言や意見を頂きながら、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、食事、水分量・排泄などの身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉気づき等記録している。勤務に入る前に必ず確認している。申し送りノートを活用し入居者の方に関する細かい申し送りや変化等が共有できている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況変化やその時のご本人やご家族の思いに合わせて対応している。ご本人が希望する場所への外出支援等対応している。協力医院との連携やかかりつけ医への受診介助、入院先の医療機関との連携を実施している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の活動に参加したりボランティア活動を通じて交流を深めている。活動を継続することは、生活の節目や楽しみになっている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続や協力医療機関の利用について相談し、ご本人ご家族の意向に沿って支援している。在宅医療は定期往診、緊急時の対応は常時可能である。その他特別な医療はご家族と協力して実施している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を、家族の協力を得て行ない、主治医にホームでの健康状態や暮らしぶりを報告し、情報の共有を図っている。また、協力医療機関による、定期的な往診体制が整い、訪問看護師と介護職員との連携が確立し、24時間、利用者が安心出来る医療連携が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅医療機関とは24時間常に連絡できる体制になっている。関わりの中でとらえた気づきは報告することにより、状態変化に応じた対応ができる環境にある。その他に毎週、火曜日に訪問看護を受けている。異常の早期発見や悪化防止に繋がっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報提供を医療機関に提供し面会を頻回に行っている。入院先の医療関係者に症状の確認を行ったり、カンファレンスに参加するなど早期退院に向けた支援をしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い、安心した終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。状況変化に伴いその都度、ご家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有している。チームで連携を図りながら支援している。	入居時に、利用者や家族にターミナルケアについて説明し、ホームで出来る支援について承諾を得ている。利用者の重度化の段階に応じて、家族と主治医も交えて話し合い、看取りの支援について方針を確認し、職員全員が方針を共有し、利用者や家族が安心して、終末期を過ごせるように支援できる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応。日頃から状態観察を行い異常時の見極め、些細なことでも管理者に報告し指示を得るようにしている。又定期的な勉強会にてマニュアルの徹底、事故発生時の対応など学ぶようにしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って対応。定期的な勉強会によりマニュアルの周知徹底に努めている。消防署立会いでの避難訓練は年に1回、自主訓練は1回実施。その他にも防火管理者を中心に訓練を実施している。防災自主点検は毎月実施している。	消防署の協力を得て、毎年防災訓練を実施し、消火器、通報装置の使用方法和避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者が安全に避難出来る体制を整えている。夜間の災害時に、2階と3階の利用者18名を、夜勤者2人で誘導することの難しさを理解し、定期訓練以外にも、自主防災組織で避難訓練を実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の話を傾聴し思いを否定しない対応とさりげない生活支援を実施するよう心がけている。日々のかかわり方を振り返り、入居者のプライドやプライバシーを損ねない様に努めている	職員は、利用者の尊厳と権利を守るために、日常生活の中で、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、大きな声掛けや、あからさまの介護にならないように注意し、利用者のプライバシーの確保に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録の保管や、職員の守秘義務については周知徹底を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人が意思決定ができるような声かけをしながら、決定できるように支援している。意思表示ができない方でも表情等を見ながらその人らしい希望を引き出せるように心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣やこだわりを理解し、自分のペースで過ごせるように支援している。その時の気持ちを重視して無理強いわせず見守るようにしている。ご自分のタイミングで居室に戻られ、趣味のお琴や大正琴、俳句等されている方もいる。声をかけたり、聞かせてもらったりと意欲の向上に努め、継続を支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向や好みで選べるように援助している。できる限り今までの習慣が継続できるように関わり(化粧や更衣等)、一人一人に合わせて支援をしている。行きつけの美容室での毛染めやパーマ、ホームでも定期的に毛染めを実施している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	関係性を配慮して、気の合う方々と食事ができるようにしている。入居者の好みや、季節のもの等喜んでいただけるように努めている。介助が必要な方は食べやすいように配慮し、好きなものを個別に提供している。ご自分で食べられたものを片付けたり、食器拭き等、お気持ちを大切に、職員とともに実施している。	利用者の嗜好を聞き取り、職員が好みに合わせた献立をつくり、利用者の残存能力を活かして、配膳や片づけ等を一緒に手伝ってもらい、利用者と職員が同じテーブルで、同じ料理を食べながら、賑やかに楽しい食事風景である。また、毎月、ボランティアによる手打ちそばは、利用者の楽しみの時間であり、沢山食べて健康の源に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食事量や水分摂取量など記録し栄養水分確保に努めている。個々に応じて高カロリー飲料やマンナン米、ミキサー食等対応している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態、習慣に合わせて、口腔ケアの声かけを行い、見守り介助を行っている。定期的に訪問歯科の点検を受け必要な方は歯科治療やケアを受けている。訪問歯科の医師より口腔ケアについて指導を受けている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表やその方の動作によって声かけやトイレ誘導をしている。オムツを着用している方も日中はトイレでの排泄を促し援助している。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ない、排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけ声掛けし、トイレやポータブルトイレでの排泄支援に取り組み、オムツ使用の軽減に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いもの、乳製品を取り入れ、1日1000ml以上を目標に水分摂取に心がけている。廊下歩行や散歩など体を動かす機会を作り、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。入居者の望む入浴方法や時間帯、援助を実施し、気持ちよく入浴してもらえるように配慮している。介助の必要な方は状態に応じて2名にて介助している。(安全確保のため)	入浴は、利用者の希望に合わせて入ってもらい、何時でも入浴出来るように準備して、一番風呂や長風呂が好きな利用者にも、楽しい入浴になるように支援している。また、入浴は、利用者職員が、ゆっくり話が出る時間と捉え、信頼関係を築く機会でもあり、入浴がきっかけで、何でも話し合える関係を築くこともある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して生活リズムづくりを行っている。夜間寝付けない方はホットミルクなど温かい飲み物を勧めたり、ゆっくりと話を聞きリラックスしていただくことで眠れるように心がけている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表で確認できるようにしている。薬箱の薬札に薬の目的用法を記入しており、繰り返し確認、理解できるようにしている。誤薬や飲み忘れがないように毎回、日付と名前、時間を確認している。必ず2名で確認し、チェック表に記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの楽しみや得意なことを把握し家事手伝いなどの役割や出番を見出す場面を作るようにしている。晩酌の継続や甘いものが好きな方等個別に提供、その方の楽しみの実現に努めている。洗濯物たたみや片付け等会話をしながら実施、入居者間のコミュニケーションの場となっている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や楽しみごとに合わせて外出できる機会をできるだけ作っている。ご家族との外出や散歩等その時の状況に合わせて支援している。施設内のウッドデッキを活用し日光浴をするなど戸外に出る機会を作っている。	利用者の希望や体調に合わせ、散歩や買い物に出掛け、利用者の気分転換や、ストレスの発散、季節を五感で感じてもらう等、戸外に出かける支援に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、買い物や美容院に出かけてもらい、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の出し入れを入居者が実施する機会は少ない。外出時に可能な方は、スタッフとともに実施している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人とのつながりを継続してもらうために定期的に電話をかけた、通信の支援をしている。毎日連絡をされている方がおり、ご家族も本人からの連絡により安心され、電話を楽しみにされている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いリビングには普通家庭にあるような一般的な家具を置いている。玄関や壁は季節感を取り入れた飾りつけに心がけている。玄関には笑顔の写真や行事の写真等掲示しており、この空間も楽しめる場所になっている。	手作りのベンチやブランコを玄関前に設置し、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、季節毎の飾り物を掲示し、音や照明、臭いにも配慮した、明るい共用空間である。また、気の合う利用者同士が隣に座り、楽しそうな会話の様子は、微笑ましいものがある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルとソファを配置。いつでも集まり気の合う人と会話を楽しめたり、ひとりで利用したりと自由に過ごされている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が持ち込まれていて、馴染みの物が置かれている。使い慣れた物、飾り、好みのものが置かれており、落ち着いて過ごされている	利用者の馴染みの家具や仏壇、家族の写真、生活必需品等を出来るだけたくさん持ち込んでもらい、利用者の好みのレイアウトにして、自宅と違和感のない雰囲気の中で、利用者が安心して穏やかに生活できる、居心地の良い清潔で明るい居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室等に手すり設置。必要時活用されている。トイレには可動式の手すりがあり、その人に合わせて利用している。リビングや居室内はその人にとって危険箇所はないか等安全面を常に確認している。		